

第7課 安息日の主 2月18日

安河内アキラ

今週の聖句 創世記 2:1～3、出エジプト記 20:8～11、申命記 5:12～15、マタイ 12:1～13、ヨハネ 9章、19:30

今週の研究 言うまでもなく、これらの聖句はイエス、つまり「万物」を創造された方としてのイエス、また「その名を信じる」人々に救いを与えられる方としてのイエスをさしています。これは創造主としてのイエス、贖い主としてのイエスを意味しています。そして、聖書に明示されているように、イエスの御業の中心であるこれら二つの側面が安息日の戒めの中に含まれています。

日曜日：創世記 2:1～3には、神が安息日を創造されたときにとられた4つの行為が記されています。神は特定の日を創造し、その日に安息し、第7日を祝福し、それを聖別されました。このことは、神がそれを聖とし、聖なる目的のために分かれたことを意味します。

神が第7日に「休まれた」(口語訳)ということは驚きです。このことは、この日がどれほど重要な意味を持つものとして与えられたかを示すものです。なぜなら、神御自身がこの日に休まれたからです！

創世記 2:3にはまた、創造主は前日に動物と人を祝福されたのと全く同様に(創 1:22、28)、第7日を「祝福」されたと記されています。神は十戒の第4条の中で、この安息日の祝福に言及し、創造の安息日を週ごとの安息日と永遠に結びつけておられます。

水曜日：マタイ 12:1～13を、特に安息日のいやしに留意しながら読んでください。このいしやがなされたのはどのような背景においてだったでしょう。イエスが特にこの日にいしやされたのはなぜだったのでしょうか。イエスが特に強調しておられるのはどんなことでしょうか。

鍵となる聖句、すべてを説明している聖句は、たぶん7節でしょう。ここに、問題の本質が明らかにされています。それは人間、つまり憐れみと親切、人を愛することと

関係がありました。正しく守るなら、安息日は、生活費を稼ぐことを余儀なくされる週の他の日以上に、困っている人に親切と憐れみを表す機会を与えてくれます。

問題は、安息日が人間の作った数多くの規則や規定に縛られ、目的——神と人に対する愛——のための手段ではなく、目的そのものになってしまっていたことです。聖書によれば、愛は律法を全うするものであって、愛を否定し、愛に背くような律法を説くことは退けられねばなりません。安息日は愛のない律法、つまり苛酷な律法主義になっていました。イエスが安息日のいやしによって闘われたのはこのような態度に対してでした。

木曜日：イエスは生きておられたときだけでなく死においても、安息日に休むことの正当性と重要性を強調されました。マタイ 27:57～28:1、マルコ 15:42～16:1、ルカ 23:52～24:1、ヨハネ 19:31～20:1 を読んでください。

「成し遂げられた」(ヨハ 19:30)と叫ばれた後で、つまり(天における執り成しに先立って)贖いの働きを成し遂げられた後で、イエスはどうなさっておられるでしょうか。イエスは第7日に安息されました。どこかで聞いた言葉です。どこで見たでしょうか。そうですね、創世記 2:1～3 です。神は創造の業の後に、第7の日に安息されました。そして今、イエスは贖いの業の後に、同じことをなさっておられます。

また、イエスが人々の心を第7日安息日から逸らそうとされたという主張に沿って考えるなら、安息日に墓の中で休まれるというイエスの模範も、この点について理解させる方法としては実に奇妙です。さらに、イエスの死が新しい契約を保証し、新しい契約が第7日安息日を廃止したというのであれば、安息日の戒めが十字架後に廃止されたと信じる人たちの論理をどのように理解したらよいのでしょうか。もし安息日の戒めが廃止されたのであれば、イエスが十字架後に最初になされたことが安息日に休むことであったのはなぜなのでしょう。

このように、イエスは生きておられたときも、死なれた後も、安息日がなおも正当性と重要性を持つことを教えられたのです。

今週の引用文は、少し長めになっていますが、とても大切なことを教えています。ぜひゆっくりと読んでください。

この中で共通するものは、「安息日に神さまとの関わりを忘れていないでしょうか」ということです。

例えば安息日に、わたしたちは礼拝をしています。語る人は、世の中でのできごとや自らの立場の正統性ばかりをかたっていないでしょうか。人々の心を神さまに向けているでしょうか。それから心から神さまを讃美しているでしょうか。

奉仕をする方は、一生けんめいに奉仕をするために、その部分ばかりを見ていて、安息日に神さまと自分が出会うことを忘れていませんか。

水曜日に書かれています、安息日は手段であって目的ではありません。

では安息日は、何のための手段なのでしょう。「神と人との愛のため」と書かれています。まず神さまに愛されていることを再確認するときです。

神さまからの愛の確認について、それは多くの導きを受けているはずですが、その声に聞き従っているか、心を静めて確認しましょう。そして最も大きな愛は「赦されている」ことです。わたしは赦された罪人であると自覚したら、もう少し求めることが変わってくるのではないのでしょうか。

そして人を愛することですが、神さまが命を与えてくださったのは、わたしたちが神さまに従い、それぞれの賜物を社会のために用いて、幸せに生きるためです。わたしたちが自らの賜物を、おさげしているのでしょうか。

今週の学びをしながら、自らも反省させられることがたくさんありました。安息日に手を休めて、神さまと自分との関係を、そして神さまの声を聞く時として行きましょう。